



「持続可能性に配慮した運営計画第二版」要旨



Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

気候変動

脱炭素社会の実現に向けて

資源管理

資源を一切ムダにしない

大気・水・緑・生物多様性等

自然共生都市の実現

人権・労働、公正な事業慣行等への配慮

多様性の祝祭

参加・協働、情報発信

パートナーシップによる大会づくり



記載の情報は2018年6月11日時点のものであり、イラストはあくまでイメージです。
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

オリンピック・パラリンピックと持続可能性

- 国際オリンピック委員会（IOC）「オリンピック・アジェンダ2020」（2014年）
オリンピック競技大会の全ての側面とオリンピック・ムーブメントの日常的な業務に持続可能性を導入
- 国連「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（2015年）
 - ・ スポーツが持続可能な開発における重要な役割を担うと明記
 - ・ 17の持続可能な開発目標（SDGs）を設定
- 「IOC持続可能性戦略」（2016年）
 - ・ 持続可能性をオリンピック・ムーブメントにおける行動原則に位置付け
 - ・ 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」及びSDGsへの貢献を明記



持続可能性に配慮した運営計画策定の経緯

- 「持続可能性に配慮した運営計画第一版」（2017年1月）
持続可能な大会の準備・運営に向けて、組織委員会や東京都、国を始めとしたデリバリー・パートナー（大会実施パートナー）が取り組む5つの主要テーマとその方向性を提示
- 「持続可能性に配慮した運営計画第二版」（2018年6月）
 - ・ 持続可能性に配慮した大会を目指す意義としてSDGsへの貢献を明確化
 - ・ 運営計画の実施及びモニタリングの体制などを明確化
 - ・ 主要テーマごとの具体的な目標とそれに向けた施策

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

東京 2020 大会を通じて、世界共通の
課題である国連「持続可能な開発目標
(SDGs)」に貢献します。

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

これまで深刻な公害問題等を克服し、成熟社会となった日本及び東京は、今、気候変動や天然資源の枯渇の懸念、生物多様性の喪失、差別等の人権問題や高齢化など、持続可能性に関する世界共通の課題に直面しています。

東京2020大会を通じて、持続可能な社会の実現に向けたこれまでの取り組みをさらに発展させ、課題解決のモデルを国内外に示していきます。

そのため、「Be better, together／より良い未来へ、ともに進もう。」を大会の持続可能性を包括するコンセプトとし、様々な方々と連携しながら主体的に取り組むことで、その責任を果たしていきます。

地球及び人間の未来を見据え、「誰一人、取り残さない」を掲げる持続可能な開発目標（SDGs）に貢献するとともに、将来の大会や国内外に広く継承されるよう取り組んでいきます。

5つの主要テーマの目標と主な取り組み

- ① **気候変動：Towards Zero Carbon（脱炭素社会の実現に向けて）**
再生可能エネルギー電力による大会運営、競技会場の省エネルギー化 等
- ② **資源管理：Zero Wasting（資源を一切ムダにしない）**
調達物品の99%を再使用・再生利用、日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～ 等
- ③ **大気・水・緑・生物多様性等**
：City within Nature/Nature within the City（自然共生都市の実現）
競技会場における雨水の循環利用、在来種の植栽 等
- ④ **人権・労働、公正な事業慣行等への配慮**
：Celebrating Diversity ～Inspiring Inclusive Games for Everyone～
（多様性の祝祭 ～誰もが主役の開かれた大会～）
国連「ビジネスと人権に関する指導原則」への準拠、Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン 等
- ⑤ **参加・協働、情報発信（エンゲージメント）**
：United in Partnership & Equality ～Inspiring Inclusive Games for Everyone～
（パートナーシップによる大会づくり ～誰もが主役の開かれた大会～）
都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト、東京2020参画プログラム 等

各主要テーマにおける主な取り組み

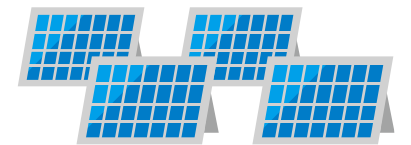
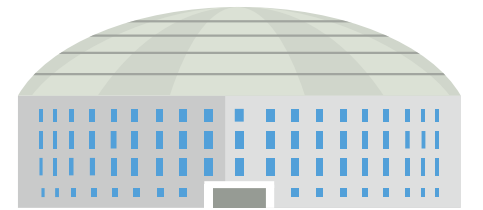
① 気候変動：Towards Zero Carbon（脱炭素社会の実現に向けて）

パリ協定がスタートする2020年に開催される東京大会において、可能な限りの省エネ・再エネへの転換を軸としたマネジメント※を実施することにより、世界に先駆けて脱炭素化の礎を全員参加で築く。

※ 管理・運営等

<主な取り組み>

- 既存会場の活用（競技会場全体の約6割）や、省エネルギー化等により会場整備における環境負荷を低減
- 競技会場、IBC（国際放送センター）／MPC（メインプレスセンター）、選手村で使用する電力について、再生可能エネルギー電力を100%使用
- 公共交通機関や燃料電池自動車の活用等により、環境負荷の少ない輸送を推進



各主要テーマにおける主な取り組み

② 資源管理：Zero Wasting（資源を一切ムダにしない）

サプライチェーン※全体で資源をムダなく活用し、資源採取による森林破壊・土地の荒廃等と、廃棄による環境負荷をゼロにすることを目指して、全員で取り組む。

※ 製品等の供給網

<主な取り組み>

- 調達物品の99%を再使用(レンタル・リース含む)・再生利用
- 運営時廃棄物の65%を再使用・再生利用
- 「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」等により、再生可能資源の利用を促進



各主要テーマにおける主な取り組み

③ 大気・水・緑・生物多様性等

: City within Nature/Nature within the City (自然共生都市の実現)

大会後のレガシーも見据え、大会の開催を通じて豊かな生態系ネットワークの回復・形成を図り、かつ快適さとレジリエンス[※]を向上させる新たな都市のシステムの創出に寄与する。

※ 強靱性

<主な取り組み>

- 組織委員会、都、関係省庁等が連携した暑さ対策の実施
- 競技会場におけるろ過施設の導入や雨水・循環利用水の活用等による水資源の有効利用
- 既存樹木への配慮や在来種による競技会場の緑化等により、海上公園等周辺の緑との調和も図りながら生態系ネットワークを創出



各主要テーマにおける主な取り組み



④ 人権・労働、公正な事業慣行等への配慮

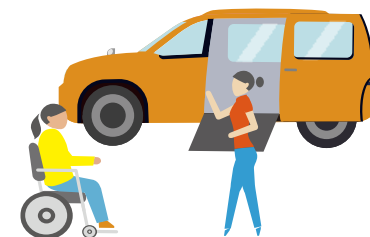
: Celebrating Diversity ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~ (多様性の祝祭 ~誰もが主役の開かれた大会~)

大会に関わるすべての人々の人権を尊重するため、互いを理解し、多様性を尊重し、受け入れるダイバーシティ&インクルージョンを可能な限り最大限確保するとともに、人権への負の影響の防止又は軽減に努める。

さらに、腐敗行為や反競争的な取引等に関与しない公正な事業慣行が確保された大会を目指す。

<主な取り組み>

- 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則した人権の保護、尊重及び救済
- ダイバーシティ&インクルージョンの意識の浸透
- 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」による大会へのアクセス機会の確保



各主要テーマにおける主な取り組み

⑤ 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

: United in Partnership & Equality ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~ （パートナーシップによる大会づくり ~誰もが主役の開かれた大会~）

国境や世代を超えた様々な主体との交流や研修等を通じた参加・協働の推進、及び社会全体で多様な主体が参画するダイバーシティ&インクルージョンとエンゲージメントが確保された社会の構築のため、誰もが主役の開かれた大会を多くの方々の参加・協働により創り上げていく。

<主な取り組み>

- 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を推進
- 「東京2020参画プログラム」をはじめ、国民参加型プロジェクト等による幅広い参加の創出
- 持続可能性に対する理解と行動促進に向けた先駆的取り組み等の発信



計画の実現に向けたマネジメント及びツール

- **ISO20121規格に則した持続可能性マネジメントシステム**
イベントの持続可能性をサポートするための国際規格であるISO20121の枠組みを導入し、継続的な改善を行いながら、計画に掲げた取り組みを着実に実行
- **報告書の作成**
大会前年の2019年春に進捗状況報告書、大会開催の前後となる2020年春、冬に報告書を作成
- **「持続可能性に配慮した調達コード」の策定・運用**
物品・サービス及びライセンス商品を対象とする「持続可能性に配慮した調達コード」及びその不遵守に関する通報受付窓口を運用

